

## ＜患者さんやそのご家族にお願い＞

病気を心配される気持ちは痛いほどよくわかります。しかしながら、この治療は、まだ保険収載されていない、まだ治療の安全性や有効性を確かめるための試験段階の治療です。その点を充分納得ください。パーキンソン病は基本的に薬のよく効く病気です。現在では、さまざまな工夫や研究により、多くの薬が服用可能で、大多数のパーキンソン病の患者さんは、薬をうまくやりくりするだけで、おおむね良好な状態を保つことができます。その中で、長年パーキンソン薬を服用されてきた方で、その副作用などにより、ジスキネジアという余計な動きが出てきたり、薬の効きの落差が大きかったり、効く時間が短くなってきたり（ウエアリングオフ）して、苦しんでおられる方に対して、試験的に行う治療になります。

薬でうまくコントロールできている方は、原則この治療の対象外になりますので、そのまま主治医の先生と相談しながら、薬物治療を続けて下さい。

パーキンソン病診療には、非常に長い時間と労力を要します。神経内科専門医 1 人で多くの患者さんに対処することは、物理的に困難な状況です。誠に申し訳ありませんが、まずは主治医の先生に、この文章を読んでいただき、本当にあなたがこの治療を受ける対象になるかどうか、この治療受けた方があなたのためになるかどうかを判断してもらってください。その上で、対象になる可能性があり、ご希望されるならば、まずは、下記の連絡先宛てに、詳細な紹介状や画像のデータをご準備いただき、送付いただきますと、折り返しご連絡させていただきます。

その後、詳細な診察、検査の上、FUS 治療が可能かどうかを決定します。この臨床試験（研究）には厳格な基準があり、せっかくご希望いただいても、基準に合致しない方は受けて頂くことができません。その場合、患者さんにとって、現状で最適だと思われる治療をおすすめし、かかりつけの先生のもとで、薬物治療などを継続していただくかもしれませんが、その点はご了承ください。

副院長 脳神経内科部長 金藤 公人